

□主な内容

【第 8 回 EST 交通環境大賞の募集開始！】

今年度も EST 交通環境大賞の募集を開始しました。全国各地で交通環境対策に取り組まれている自治体、企業、市民団体等の皆様が応募されることを期待しています。

<http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2016.html>

【第 6 回地域の交通環境対策推進者研修会募集開始！】

平成 28 年 10 月 26 日 (水)～28 日 (金) の 3 日間、仙台市を研修地域として実施します。意欲のある方々の参加を期待しています。

<http://www.estfukyu.jp/training2016.html>

□目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 120 回)

●「自らが主体的に考える」仕組みへ

【愛媛大学大学院理工学研究科准教授 倉内 慎也】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 120 回)

●「システムを活用した市バスの利便性向上について」

【神戸市交通局自動車部市バス運輸サービス課 寺尾 鷹輝】

3. ニュース／トピック

●第 8 回 EST 交通環境大賞の応募を開始【EST 普及推進委員会】

●「地域交通グリーン化事業」の対象案件の決定について【国土交通省】

●平成 28 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 (物流分野における CO2 削減対策促進事業) の二次公募について【環境省】

●「ひと・もの」協働輸送プロジェクト実証実験について【北海道運輸局】

●交通エコロジー教室の開催について【北海道運輸局】

●平成 28 年度 JCOMM 四賞の各受賞者について【日本モビリティ・マネジメント会議】

●平成 28 年度県下一斉ノーマイカーデーの実施について【青森県】

●羽地内海周辺のサイクルツーリズムの可能性調査について【名護市】

●公共交通の利用促進に向けた事業の決定について【北秋田市】

●パークアンドライド社会実験について【新潟市】

●日産自動車九州株式会社との連携に関する協定締結について【行橋市】

●小中高生夏休みフリーパス「ノりのりきっぷ」の発売について【佐賀市交通局】

- 燃えにくい電解液を用いた高性能 4.6 V リチウムイオン電池について【東京大学】
- 快適性と省エネ化を両立する新しい車内空調システム実現に向けた研究について【芝浦工業大学】
- 電力供給の仕組みなどで共同研究開発の開始について【株式会社社会津ラボ】
- 私有地における無人運転バスの交通システムの導入について【株式会社ディー・エヌ・エー】
- 気候変動に対する新たな共同行動計画の発表について【世界資源研究所】

4. イベント情報

- 第 6 回地域の交通環境対策推進者養成研修会【2016/10/26-28】
- 交通・観光カーボンオフセット支援システム説明会【2016/7/28】
- 第 9 回 MM(モビリティ・マネジメント)技術講習会【2016/7/28,29】
- 第 8 回土木と学校教育フォーラム【2016/8/28】
- 第 24 回地球環境シンポジウム【2016/8/31-9/2】
- 第 23 回 ITS 世界会議メルボルン 2016【2016/10/10-14】
- くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2016【2016/10/29,30】
- 第 14 回 ITS シンポジウム 2016【2016/11/10,11】
- エコプロ 2016(第 18 回)【2016/12/8-10】

5. その他

- EST パートナシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 120 回)

●「自らが主体的に考える」仕組みへ

【愛媛大学大学院理工学研究科准教授 倉内 慎也】

1 年以上前の話になりますが、松山市で自転車関連のシンポジウムが開催されました。主
題は自転車走行に関することであり、国土交通省の「安全で快適な自転車利用環境創
出ガイドライン」を受け、松山市で、今後どのように走行環境を整備してゆくと共に、それを
(自転車利用者以外も含め)市民でいかに上手に使うべきかという点でした。その中で、
パネリストの方が、「すべての道路に自転車通行帯を明示することは不可能であるし、自動
車交通量や道路構造等の環境も千差万別であるため、自らが望ましい走行とは何かを考
え、実行できるような能力を養う教育が重要」と仰っていたのが印象的でした。

自転車施策に限らず、交通施策の背後には、施策の実施により、利用者が「自然と」社
会的に望ましい交通行動をとるような環境を創出するという考えがあります。これは、人間は
近視眼的でミスを犯しやすいという点から不可欠な視点であり、TDM 施策の根幹をなす思
想とも言えます。しかし、先の自転車の例のように、すべての道路に自転車通行帯が明示で
きるわけではありません。ただし、そもそもすべての道路に自転車通行帯を設置する必要もな
く、一部の通行帯設置区間がショーケースとなり、未設置区間でも同様の走行をして頂く効
果を期待している部分も多分にあるかと思います。しかし、実際に自転車レーンを設置して
も「一部の区間だけ整備しても意味がない」との意見を少なからず耳にすることからも、そのよ
うな意図が必ずしも利用者に伝わっていないのではないかと思います。

このような話になると、やはり教育が重要だということになりますが、改めて場を設けるなどし
て教育を行うこともなかなか難しい部分があります。では、どうしたら良いのでしょうか。私自身、
何らかの解を持っているわけではないのですが、賢い選択へ導くようなシステムが具備すべき
条件として、行動経済学者のリチャード・セイラー教授が「ナッジ(NUDGES)」という考えを提
唱しています。詳しくは、下記文献を参照頂きたいのですが、NUDGES とは以下の要素から
成ります。

iNcentives: 適切なインセンティブを与える

Understand mappings: 選択の結果(マッピング)を理解させる

Defaults: 多くの人にとって困らない状況をデフォルトとして設定しておく

Give feedback: 選択に対するフィードバックを与える

Expect error: エラーを予期する

Structure complex choices: 複雑な選択を体系化する

このうち、インセンティブの付与、デフォルトの設定、エラーの予期、については、これまでも交
通施策に携わってきた方々が細心の注意を払ってこられた点かと思います。また、複雑な選
択の体系化についても、交通分野では、選択肢が多すぎて悩むようなシチュエーションはそれ
ほど多くないのではと思います。一方で、選択に対するフィードバックを行うなどして、結果を

理解させるという点については不十分ではないかと思います。近年では、モビリティ・マネジメントの一環で、フィードバック等がなされてきていますが、多種多様な方に第三者が改めてフィードバックを行うのも困難なケースがありますので、利用を通じて自らが気付き、自発的に考えるような仕組みづくりが重要であると感じています。

IT の進展に伴い、選択がもたらす多様な影響を伝えることはもとより、選ばなかった行動の結果をバーチャルに再現する技術も出始めてきています。親切心から生まれたシステムが、時に思考停止を招くことにならないよう、自らが気付き考えるような仕組みを組み込んでゆく必要があるのではないのでしょうか。

参考文献：リチャード・セイラー、キャス・サンスティーン（遠藤真美（訳））：実践行動経済学－健康、富、幸福への聡明な選択－、日経 BP 社、2009.

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 120 回)

●「システムを活用した市バスの利便性向上について」

【神戸市交通局自動車部市バス運輸サービス課 寺尾 鷹輝】

バスの利用者が減少の一途を辿る中、神戸市交通局では市バスの乗客増のため、路線の再編やイベント企画、利便性向上のための制度導入など、様々な観点から取り組みを行ってきました。今回は、システムを活用して行っている事業を2つご紹介させていただきます。

1つ目は、昨年 10 月から提供している、パソコンやスマートフォンから神戸市内の乗継を検索できる「KOBE 乗継検索」です。市バス・地下鉄を含む、市内を走るほとんどの交通事業者に対応しています。

最大の特徴は、検索画面に地図を表示している点です。駅・バス停名の入力だけでなく、地図上の位置指定による出発地・目的地の設定が可能であり、検索結果の経路を徒歩も含めて表示します。神戸市内で利用すれば、利用者の位置を中心として地図が表示されますので地図上での設定がしやすく、現在地から目的地までの道筋をすぐに知ることが出来ます。住民の方はもちろん、はじめて神戸市にお越しになる方にも便利にお使いいただける機能となっています。

2つ目は、本田技研工業株式会社をはじめとした関係各社と協力して行っている「市バスを情報通信基地とする実証実験」です。本田技研が開発した V2X ユニット「WDB」を市バス車両に取り付け、機器に備わっている GPS 機能や加速度センサー、Wi-Fi ルータ機能などを使用した様々な活用可能性を検証しています。神戸市交通局では利便性向上のため、WDB を活用したバスロケーションシステムの導入を考えており、実証実験の第一弾と位置付け、5 月末までユーザー画面の提供等の実験を行いました。現在は実験結果を基に、本格導入に向けた検討を進めているところです。

今後想定される活用法としては、取得した位置情報や加速度情報などを活用した運行管理や、車外カメラと連携した渋滞情報の把握、デジタルサイネージと連携した車内広告や災害情報の表示などが挙げられます。また、本田技研では、WDB を大規模災害時における緊急情報伝達用ツールとして活用することも想定されていると聞いています。どれも、今後可能性を探っていく、という段階のものではありますが、WDB を付けた市バスが情報の収集・発信ツールとして新しく位置づけられる日も、そう遠くないかもしれません。

神戸市バスが今後も長く「市民の足」として走り続けるために、神戸市交通局はこれからも様々な可能性に挑戦していきます。

3. ニュース／トピック

●第8回 EST 交通環境大賞の応募を開始【EST 普及推進委員会】

EST 普及推進委員会及びエコモ財団では、地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰する EST 交通環境大賞の募集を開始しました。以下のウェブページをご覧ください、全国各地で交通環境対策に取り組まれている自治体、企業、市民団体等の皆様が応募されることを期待しています。

<http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2016.html>

●「地域交通グリーン化事業」の対象案件の決定について【国土交通省】

国土交通省では、公募を行っていた電気自動車バス・タクシー・トラック、燃料電池自動車バス・タクシー及び超小型モビリティの導入を支援する「地域交通グリーン化事業」について、応募のあった事業計画について外部有識者による評価結果を踏まえて選定し、本事業の支援対象とする案件を決定しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000167.html

●平成28年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（物流分野におけるCO2削減対策促進事業）の二次公募について【環境省】

環境省は、物流拠点の低炭素化促進事業、鉄道貨物輸送へのモーダルシフトモデル構築事業、水素社会実現に向けた産業車両の燃料電池化促進事業について、二次公募を開始します。

<http://www.env.go.jp/press/102744.html>

●「ひと・もの」協働輸送プロジェクト実証実験について【北海道運輸局】

北海道運輸局では、路線バス車両で人と物を同時に輸送する、貨客混載輸送の実証実験を行います。実証期間は平成28年7月22日～平成28年8月21日です。

<http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/press/presspdf/2807/280719.pdf>

●交通エコロジー教室の開催について【北海道運輸局】

北海道運輸局は、室蘭市、道南バス株式会社と連携して、室蘭市内の喜門岱小学校他2校にて交通エコロジー教室を開催し、地球温暖化実験、生活における省エネの重要性の理解につながるカードゲーム、ハイブリッドバスの試乗体験などを行いました。

<http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/press/presspdf/2807/280715-2.pdf>

●平成 28 年度 JCOMM 四賞の各受賞者について【日本モビリティ・マネジメント会議】

日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)は、国内の様々なモビリティ・マネジメントについて特に優秀な取り組みや研究を表彰する、JCOMM 賞の平成 28 年度の各賞受賞者を選定し、第 11 回日本モビリティ・マネジメント会議において表彰しました。

http://www.jcomm.or.jp/award/jcomm_award_winners_28.html

●平成 28 年度県下一斉ノーマイカーデーの実施について【青森県】

青森県では、マイカーによる通勤を控え、公共交通機関や徒歩、自転車など環境に優しい通勤手段へ転換するきっかけづくりとして、平成 28 年度も県下一斉ノーマイカーデーを実施します。

http://www.pref.aomori.lg.jp/nature/kankyo/no-mycar-day_2016.html

●羽地内海周辺のサイクルツーリズムの可能性調査について【名護市】

名護市では、自転車のまちづくりを推進するため、羽地内海周辺のサイクルツーリズムの可能性を調査し、今後取り組むべき具体的方策の立案に繋げることを目的に実地演習を実施します。

<http://www.city.nago.okinawa.jp/DAT/LIB/WEB/1/kaiken2806.pdf>

●公共交通の利用促進に向けた事業の決定について【北秋田市】

北秋田市では、平成 28 年度秋田内陸地域公共交通連携協議会総会において、秋田内陸線をはじめとした公共交通の利用促進に向け意見交換が行われました。

https://www.city.kitaakita.akita.jp/chiiki_wadai/2016/07/05-nairikukoutsu.html

●パークアンドライド社会実験について【新潟市】

新潟市では、今後もパークアンドライドをより効率的に進めていくための調査として、月極めや時間貸しをあわせた社会実験を行います。実施期間は平成 28 年 7 月 1 日(金)～平成 29 年 2 月 28 日(火)です。

<http://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/doro/kotsu/mm/park-ride.html>

●日産自動車九州株式会社との連携に関する協定締結について【行橋市】

行橋市は、地域の環境を守り、人と地球にやさしいまちを実現するために、日産自動車九州株式会社と連携協定を締結しました。今回の協定締結を機に、行橋市に小型電気自動車日産ニューモビリティコンセプト 2 台が貸与されました。

<http://www.city.yukuhashi.fukuoka.jp/doc/2016063000022/>

●小中高生夏休みフリーパス「ノりのりきっぷ」の発売について【佐賀市交通局】

佐賀市交通局では、夏休み期間限定で市営バス全路線が乗り放題になるフリーパス「ノりのりきっぷ」を発売します。

http://www.bus.saga.saga.jp/info/2016/06/post_206.html

●燃えにくい電解液を用いた高性能 4.6 V リチウムイオン電池について【東京大学】

東京大学は、リチウムイオン電池の高電圧作動を可能にする新規な難燃性電解液を開発しました。新開発の難燃性電解液により達成された高電圧作動により、高密度かつ高安全のエネルギー貯蔵が可能となり、長距離走行が可能な電気自動車の開発などに大きく貢献すると期待されます。

https://www.t.u-tokyo.ac.jp/foe/press/setnws_20160629171734802394489923.html

●快適性と省エネ化を両立する新しい車内空調システム実現に向けた研究について【芝浦工業大学】

芝浦工業大学は、カルソニックカンセイ株式会社と共同で、車内を人それぞれの快適温度に保ちつつ空調を最小限にして、自動車の燃費性能向上も実現する、次世代空調システムの開発に向けた研究を開始しました。

<http://www.shibaura-it.ac.jp/news/2016/40160091.html>

●電力供給の仕組みなどで共同研究開発の開始について【株式会社社会津ラボ】

株式会社社会津ラボは、日産自動車株式会社と共同で、電気自動車をドローンへの給電設備として活用する仕組みを開発し、業務用ドローンへの実用化を検証する取り組みを開始しました。

<http://www.aizulab.com/pdf/20160704aizulab.pdf>

●私有地における無人運転バスの交通システムの導入について【株式会社ディー・エヌ・エー】

株式会社ディー・エヌ・エーは、EasyMile S.A.と業務提携し、私有地における無人運転バスを使用した交通システム「Robot Shuttle」を2016年8月から運用すると発表しました。「Robot Shuttle」は最大12名が乗車できる電気自動車で、運転席はなく予め作成した地図データ上に設定したルート上をカメラ、各種センサー、GPSを用いて自車両の場所を測定しながら自動で走行します。

<https://dena.com/jp/press/2016/07/07/1/>

●気候変動に対する新たな共同行動計画の発表について【世界資源研究所】

世界資源研究所は、アメリカ、カナダ、メキシコの3か国が国別の排出削減目標を達成しクリーンエネルギーの機会を拡大するため、共同の包括的気候変動対策に合意したことについて歓迎するコメントを発表しました。

<http://www.wri.org/news/2016/06/statement-north-american-leaders-drive-momentum-climate-action>

4. イベント情報

● 第 6 回地域の交通環境対策推進者養成研修会

日時:2016 年 10 月 26 日(水)~28 日(金)

場所:仙都会館 8階 会議室など

主催:EST 普及推進委員会、エコモ財団、国土交通省東北運輸局

<http://www.estfukyu.jp/training2016.html>

● 交通・観光カーボンオフセット支援システム説明会

日時:7 月 28 日(木)13:30~16:00

場所:TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター4階「カンファレンスルーム 4A」

主催:エコモ財団

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/data/setumeikai_16.7.28.pdf

● 第 9 回 MM(モビリティ・マネジメント)技術講習会

日時:2016 年 7 月 28 日(木)、29 日(金)

場所:グランドビル市ヶ谷

主催:一般財団法人計量計画研究所

<http://www.ibs.or.jp/release/569>

● 第 8 回土木と学校教育フォーラム

日時:2016 年 8 月 28 日(日)9:00~17:00

場所:土木学会(講堂、A,B 会議室)

主催:土木学会

共催:エコモ財団

<http://committees.jsce.or.jp/education04/node/38>

● 第 24 回地球環境シンポジウム

日時:2016 年 8 月 31 日(水)~9 月 2 日(金)

場所:首都大学東京南大沢キャンパス

主催:土木学会

<http://committees.jsce.or.jp/global/node/41>

●第 23 回 ITS 世界会議メルボルン 2016

日時:2016 年 10 月 10 日(月)~14 日(金)

場所:The Melbourne Convention and Exhibition Centre (MCEC)

主催:メルボルン世界会議組織委員会

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_100/melbourne_2016/

●くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2016

日時:2016 年 10 月 29 日(土)、30 日(日)

場所:東洋大学白山キャンパス

主催:くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会

<http://zenkokuforum.jimdo.com/>

●第 14 回 ITS シンポジウム 2016

日時:2016 年 11 月 10 日(木)、11 日(金)

場所:北海道大学 クラーク会館

主催:特定非営利活動法人 ITS Japan、北海道大学

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/14th2016/

●エコプロ 2016(第 18 回)

日時:(1 日目)2016 年 12 月 8 日(木)10:00~18:00

(2 日目)2016 年 12 月 9 日(金)10:00~18:00

(3 日目)2016 年 12 月 10 日(土)10:00~17:00

場所:東京ビッグサイト 東ホール

主催:一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/2016/>

5. その他

- EST パートナシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
2013年7月16日から募集を開始し、37団体が参加しています。
会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。
http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
<https://twitter.com/officeEST>
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
<http://www.green-m.jp/>
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
配信申込はこちらから
<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html
- 記事募集中！
本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。
EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp (担当: 熊井)

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>